

よんでネット* 2024 冬号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会



集英社
【481ヤ】

動物たちは何をしゃべっているのか?

山極寿一 鈴木俊貴

「タカだ!」「ヘビだ!」「ヒヒヒ」「ジャージャー」と、仲間に警告するシジュウカラ。密猟者の事を手話で飼育員に語るゴリラ。動物たちは何を考え、どんなおしゃべりをしているのか。

シジュウカラの鳴き声には文法がある、と解明した動物言語学者 鈴木氏と、ゴリラ学の権威 山極氏の対談集。二人の楽しいおしゃべりを聞いているうち「人間とはどういう動物なのか」が見えてくる。

石たちの声がきこえる

マーグリート・ルアーズ作 ニザール・アリー・バドル絵
前田君江 訳 ファラーフ・ラヒーム アラビア語訳

オンドリの声で目を覚まし、笑いあっていた日々。
戦争が始まると村の暮らしはいっぺんに変わった。
食べ物なくなり、鳥は歌わなくなった。

「じゆうな どこか、わらうことか、できるとどこか、ばくだんが
おちてこない どこか、(中略) へいわな どこかへ
むかって ひとびとの かわが ながれていく。」

石で描かれた絵本。石たちの声がきこえますか?



新日本出版社

【E・絵本のコーナー】



雪山のエンジェル

ローレン・セオジョン作
さくま やみこ 訳

評論社
[933セ]

山岳ガイドの父と山に登ることが大好きなマケナは、両親と平和に暮らしていた。ところがある日、両親を新型の感染症“エボラ出血熱”で失ってしまう。突然孤児となったマケナは、危険で不安定なスラム街での生活を余儀なくされるが、父と登ったケニア山での思い出や不思議な銀色のキツネとの出会いを元に、希望を失わずに生き抜いていく！

みかん、好き？

魚住直子

ある日、島でみかん園を営む祖父を訪ねた拓海^{たくみ}は、見知らぬ女の子から突然声をかけられる。「みかん、好き？」。ひなたというその女の子は、祖父のみかんの味に感動して、東京から一人、この島に来たという。しかも拓海の通う高校を受験してまでだ。島の暮らしが好きになれない拓海にとって、ひなたは不思議すぎる女の子だった。



講談社 [913ウ]



鈴木出版
[933ケ]

ぼくと象のものがたり

リン・ケリー作
若林千鶴 訳

ハスティンは10歳。お母さんと妹と暮らしている。妹がひどい熱病にかかり、その治療費を稼ぐため、ジャングルのサーカスで働くことになった。そこで違法に捕えられた子象のナンディタに出会う。ハスティンは、つきっきりで子象の世話をし、お互いの絆を深めていった。残酷な雇い主から彼と子象が自由になれる日は来るのか？